令和６年度 兵庫県立明石北高等学校 学校自己評価　【結果】

【実践目標の達成状況評価】　４：そう思う　３：どちらかといえばそう思う　２：どちらかといえばそう思わない　１：そう思わない　＊：わからない
【評価基準】４段階評価の平均　Ａ：３．０以上　Ｂ：２．８以上　Ｃ：２．６以上　Ｄ：２．５以下　［評価者（回答数）：３５人］

領域等		評価の観点		実践目標（指標）	平均	評価	平均のup/down
学校運営	共通項目	開かれた学校づくり	1	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.4 (3.3)	A (A)	↗
			2	学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	3.2 (3.0)	A (A)	↗
		生徒指導	3	登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.1 (3.2)	A (A)	↘
			4	適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.5 (3.4)	A (A)	↗
			5	いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.5 (3.2)	A (A)	↗
		進路指導	6	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実に努める。	3.3 (3.2)	A (A)	↗
			7	個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	3.3 (3.1)	A (A)	↗
		教職員の資質向上	8	学校の諸課題、特にICT機器の活用推進に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.0 (3.1)	A (A)	↘
			9	学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）の育成を目標とした授業改善に取り組む。	3.3 (3.2)	A (A)	↗
		危機管理体制の整備	10	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	3.1 (2.9)	A (B)	↗
			11	不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	2.8 (2.8)	B (B)	→
	選択項目	学校運営全般	12	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.3 (3.2)	A (A)	↗
			13	勤務時間の適正化（「ノー部活デー」の取組を含む）を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	3.1 (3.0)	A (A)	↗
教育課程	共通項目	自ら学び自ら考える力の育成	14	令和4年度より実施される新学習指導要領を念頭に、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成（検討）する。	3.1 (3.0)	A (A)	↗
		基礎・基本の定着	15	「学習のための基本的スキル」の育成と、主体的・対話的で深い学びを実現するための教授方法を創意工夫する。	3.2 (3.1)	A (A)	↗
		総合的な探究の時間（課題研究）	16	批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力からなる「探究力」を持った生徒の育成に努める。	3.3 (3.2)	A (A)	↗
		個に応じた学習指導の徹底	17	「診断的評価」「形成的評価」の観点を取り入れることにより学習評価の精度を高めるとともに、「観点別評価」の普及と充実に取り組む。	3.1 (3.0)	A (A)	↗
	選択項目	特別活動（学校行事等）	18	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	3.4 (3.2)	A (A)	↗
			19	学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。	3.1 (2.9)	A (B)	↗
課題教育	共通項目	防災・安全教育	20	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	3.3 (3.2)	A (A)	↗
		人権教育	21	3年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.3 (3.0)	A (A)	↗
	選択項目	情報教育	22	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.3 (3.2)	A (A)	↗
		環境・福祉教育	23	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	3.1 (3.1)	A (A)	→
	独自項目	学校の個性化・多様化	24	【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動（課題研究を含む）の充実を図る。	3.4 (3.3)	A (A)	↗
			25	各教科・科目の授業及び特別活動等にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	3.1 (2.9)	A (B)	↗
			26	SSH事業を軸として「教科横断的な学習」を推進している。	3.1 (3.0)	A (A)	↗
				【総合評価】	3.2 (3.1)	A (A)	↗

令和6年度学校評価　教員・生徒・保護者による評価結果比較表　【評価基準日：令和6年12月20日】

【教職員（行動指標）】　4：そう思う　3：どちらかといえばそう思う　2：どちらかといえばそう思わない　1：そう思わない　＊：わからない
【生徒・保護者（成果指標）】　4：そう思う　3：どちらかといえばそう思う　2：どちらかといえばそう思わない　1：そう思わない　＊：わからない

【評価基準】　4段階評価の平均　A：3.0以上　B：2.8以上　C：2.6以上　D：2.5以下

領域	等	評価の観点	面項	教職員	平均	評価	生徒	平均	評価	保護者	平均	評価
学校運営	共通項目	開かれた学校づくり	1	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.4 (3.3)	A (A)	学校ホームページや学年通信、Google Classroom 等で、必要な情報が得られている。	3.4 (3.3)	A (A)	学校ホームページや学年通信、ラインネット等で、必要な情報が伝えられている。	3.4 (3.1)	A (A)
			2	学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	3.2 (3.0)	A (A)						
		生徒指導	3	登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.1 (3.2)	A (A)	交通ルールやマナーを守り、安全に登下校している。	3.7 (3.6)	A (A)	子どもは基本的な生活習慣や交通道徳が身についている。	3.4 (3.3)	A (A)
			4	適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.5 (3.4)	A (A)	先生方には、不安や悩み事を気軽に相談できる雰囲気がある。	3.2 (3.2)	A (A)			
			5	いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.5 (3.2)	A (A)	先生方からは、いじめを生まない、許さないという姿勢が感じられる。	3.4 (3.4)	A (A)	学校全体でいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める姿勢が感じられる。	3.1 (3.0)	A (A)
		進路指導	6	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実に努める。	3.3 (3.2)	A (A)	進路選択や進路実現に向けた学習支援や行事、個別面談が充実している。	3.3 (3.3)	A (A)	子どもの主体的な進路選択や、進路希望の実現に向けた情報提供や支援体制が充実している。	3.2 (3.0)	A (A)
			7	個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	3.3 (3.1)	A (A)						
		教職員の資質向上	8	学校の諸課題、特にICT機器の活用推進に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.0 (3.1)	A (A)						
			9	学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）の育成を目標とした授業改善に取り組む。	3.3 (3.2)	A (A)						
		危機管理体制の整備	10	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	3.1 (2.9)	A (B)						
			11	不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	2.8 (2.8)	B (B)						
	選択項目	学校運営全般	12	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.3 (3.2)	A (A)				子どもの学年の経営方針（どのような生徒を育てたいのか）を理解している。	3.2 (2.9)	A (B)
			13	勤務時間の適正化（「ノー部活デー」の取組を含む）を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	3.1 (3.0)	A (A)	「ノー部活デー」の取組がなされ、バランスのとれた生活を送っている。（3年生は振り返って回答）	3.3 (3.3)	A (A)	「ノー部活デー」の取組により、子どもはバランスのよい生活を送っている。（3年生保護者は振り返って回答）	3.3 (3.0)	A (A)
教育課程	共通項目	自ら学び自ら考える力の育成	14	令和4年度より実施されている新学習指導要領を念頭に、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成（検討）する。	3.1 (3.0)	A (A)	生徒が興味・関心が持て、主体的に学習に取り組める授業が多い。	3.1 (3.1)	A (A)	子どもの興味・関心に対応した特色ある教育活動が行われている。	3.1 (2.9)	A (B)
		基礎・基本の定着	15	「学習のための基本的スキル」の育成と、主体的・対話的で深い学びを実現するための教授方法を創意工夫する。	3.2 (3.1)	A (A)				入学時と比較して、子どもには主体的に学習に取り組む姿勢が育っている。	3.3 (3.0)	A (A)
		総合的な学習（探究）の時間（課題研究）	16	批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力からなる「探究力」を持った生徒の育成に努める。	3.3 (3.2)	A (A)	総合（課題研究）の時間を通じて、思考力・判断力・表現力が高められている。	3.3 (3.2)	A (A)			
		個に応じた学習指導の徹底	17	「診断的評価」「形成的評価」の観点を取り入れることにより学習評価の精度を高めるとともに、「観点別評価」の普及と充実に取り組む。	3.1 (3.0)	A (A)	生徒一人一人の実態に応じて、きめ細かな学習指導と評価が行われている。	3.1 (3.1)	A (A)	子どもに対して、個に応じたきめ細かな学習指導と評価がなされている。	3.0 (2.7)	A (C)
	選択項目	特別活動（学校行事等）	18	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	3.4 (3.2)	A (A)	学校行事や生徒会行事、ホームルーム活動に積極的に参加（協力）している。	3.4 (3.4)	A (A)	各種学校行事の内容や実施時期は満足できるものである。	3.4 (3.0)	A (A)
			19	学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。	3.1 (2.9)	A (B)						
課題教育	共通項目	防災教育・安全教育	20	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	3.3 (3.2)	A (A)	防災に関する訓練や授業等を通して、防災・減災の意識を高めることができている。	3.3 (3.4)	A (A)			
		人権教育	21	3年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.3 (3.0)	A (A)	互いの違いを認め合い、自他を大切にしようとする態度が身についている。	3.5 (3.5)	A (A)	子どもには、互いの違いを認め合い、自他を大切にしようとする態度が備わっている。	3.4 (3.2)	A (A)
	選択項目	情報教育	22	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.3 (3.2)	A (A)	スマートフォンやSNSを利用する時は、ネット上のルールやマナーを守っている。	3.7 (3.7)	A (A)	子どもはスマートフォンやSNS利用時のルールやマナーが身についている。	3.2 (2.9)	A (B)
		環境・福祉教育	23	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	3.1 (3.1)	A (A)	校内清掃に励み、身近な生活環境を美しく保とうと意識している。	3.4 (3.4)	A (A)	子どもたちの生活環境・学習環境はよく整えられている。	3.2 (3.0)	A (A)
	独自項目	学校の個性化と多様化	24	【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動（課題研究を含む）の充実を図る。	3.4 (3.3)	A (A)	【1年8組対象】STEAM教育では、教科の枠を超えた体験的な学びに「ワクワク」している。	3.9 (3.7)	A (A)			
			25	各教科・科目の授業及び特別活動等にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	3.1 (2.9)	A (B)	SDGsを理解し行動することは、自分にとっても身近な課題である。	3.3 (3.3)	A (A)	学校教育を通して子どもがSDGsに興味・関心を向けることは大切なことだ。	3.5 (3.4)	A (A)
			26	SSH事業を軸として「教科横断的な学習」を推進している。	3.1 (3.0)	A (A)	探究的な活動を通して、理数的な視点で考察する力がついたと感じる。	3.3 (3.2)	A (A)	探究的な学びの機会が増えていると感じる。	3.2 (3.1)	A (A)
				【総合評価】	3.2 (3.1)	A (A)	【総合評価】	3.4 (3.4)	A (A)	【総合評価】	3.3 (3.0)	A (A)